

「今後の国際宇宙探査で行う科学の検討サイクル構築」に向けた Task Force 報告

竝木 則行 (国立天文台), 石上 玄也 (慶應大・理工), 稲富 裕光 (JAXA), 小林 泰三 (立命館大・理工), 桜井 誠人 (JAXA), 寺田 直樹 (東北大・理), 宮本 英昭 (東大・工), 山岸 明彦 (東京薬科大・生命科学), 山田 亨 (JAXA)

Task force report on study cycles construction for henceforward International Space Exploration sciences

Noriyuki Namiki*, Genya Ishigami, Yuko Inatomi, Taizo Kobayashi, Masato Sakurai, Naoki Terada, Hideaki Miyamoto, Akihiko Yamagishi, and Toru Yamada

*National Astronomical Observatory of Japan, Osawa Mitaka, Tokyo 181-8588
E-Mail: nori.namiki@nao.ac.jp

Abstract: This task force was established under the International Space Exploration Committee for the purpose of sharing the science roadmap of international space exploration and aiming for a common goal between the International Space Exploration Center and the academic communities. In the TF report, we made recommendations to construct a cycle of science discussions shedding light on unresolved issues. The important points in the cycle are (a) information exchange in the cycle, (b) re-organization of the academic communities, and (c) priorities of the action plans.

Key words; International Space Exploration, Roadmap

国際宇宙探査センターと学術コミュニティが国際宇宙探査のサイエンスロードマップを共有して、共通のゴールを目指すことを目的として、宇宙科学研究所 国際宇宙探査専門委員会は「今後の国際宇宙探査で行う科学の検討サイクル構築」に向けたタスクフォースを設置した。TF では科学の検討サイクルを構築するための提言を行い、未解決の課題を整理した。この提言が今後の国際宇宙探査で行う科学の検討サイクル構築」に向けたタスクフォース報告にまとめられている。

サイクルを回す上で重要なポイントは (a) サイクル中の情報伝達, (b) 学術コミュニティの体制, (c) 実行計画策定における優先順位の考え方, である。サイクルを円滑に回し、かつ成長させるために、学術

- (2) JAXA が持つ情報だけでなく、学術コミュニティや産業界が独自に入手した情報を (あえて不確定な段階からでも) 交換すること,
- (3) ロードマップについてのオープンな議論の場を提供し、各種提案を分類して大方針についてのコンセンサスを作ること (ただし、ロードマップの策定は少数の目利きがまとめる),
- (4) 新規参入分野の育成のために、JAXA や政府が提供する研究開発費や人的支援について紹介するとともに、老舗分野の活動紹介を通して国際宇宙探査に参加する上で求められる体制や機能を伝授すること,

がリードして宇宙開発のためのコンソーシアム/協議会を立ち上げることを提言する。その役割は、

- (1) JAXA, 学会, 産業界, 官の専門家会議, タスクフォース, 国際宇宙機関による Discipline Working Group, 宇宙科学研究所のワーキンググループ等のコアメンバが参加して、人財開発・情報交換のハブとなること,

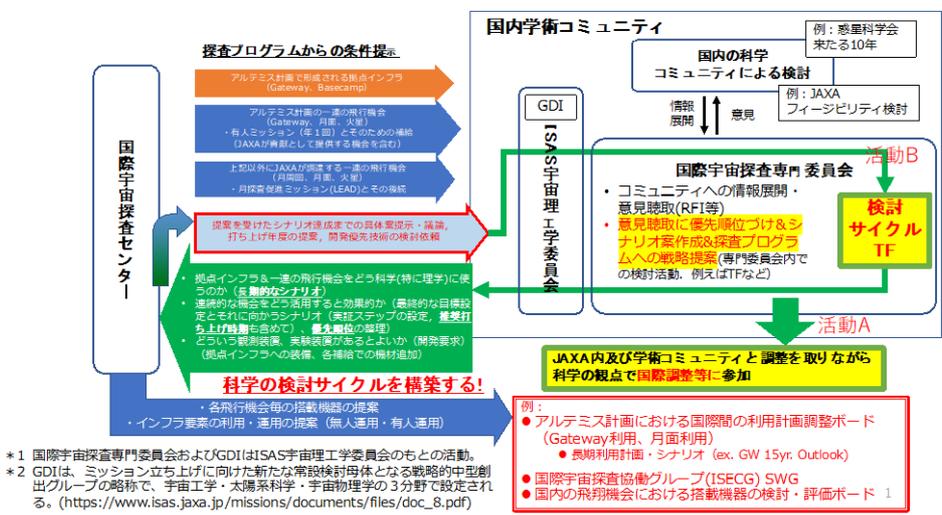


図1 国際宇宙探査委員会 (2023年3月7日) 資料 (国際宇宙探査のための検討体制案 20230307 組織修正案 revA) .